

平成29年度 宇都宮市立瑞穂野南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

社会に貢献できるよう、心身ともに健康で、豊かな人間性をもった実践力のある児童を育成する。

- ・ 健康で たくましい子（体）
- ・ よく考え やりぬく子（知）
- ・ 正しく 思いやりのある子（徳）
- ・ ふるさとを愛する子（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「テーマ： 活力と潤い、そして地域とともにある学校づくり」

児童のよりよい成長のためには、児童、教職員、保護者・地域住民がそれぞれのよさを発揮していくことが重要であると考え、3つの視点からテーマを設定した。そして、子どもたちが自他のよさを生かして生き生きと活動できる学校、家庭・地域の教育力が生かされた学校、教職員が自らの資質を向上させようと日々努力する学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 人間力の基盤となる「健康な体」「豊かな心」「確かな学力」「生きぬく力」の4項目の実現

- 主体的に健康な体づくりをする児童を育成する。
- 個々のよさを伸ばし、互いに認め合い、豊かな人間関係を育む児童を育成する。
- 基礎的・基本的な内容の充実を図り、主体的に粘り強く課題解決をする児童を育成する。
- 危険を予測して回避し、自分で安全に行動しようとする児童を育成する。

(2) 保護者・地域との連携

- ・ 地域の教育力を生かした相互に協力により、学校・保護者・地域の連携を図る。

(3) 活力と潤いのある学校づくりの推進

- ・ PDCAサイクルによる教育活動の評価と改善を図る。
- ・ 教職員の資質の向上を目指す。
- ・ 花草や掲示物等の潤いのある環境づくりをする。

[瑞穂野地域学校園教育ビジョン]

9年間の連続した学びの中で「生きる力」を育てる小中一貫教育
～ 瑞穂野地域 学力向上プロジェクト ～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（学校運営）

- ・ 地域や家庭と連携し、児童が生き生きと主体的に活動できる安全・安心な学校

（児童生徒指導）

- ・ 自他を尊重し、主体的に活動できる児童の育成

（健康・体力）

- ・ 自己の健康・体力に関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組む児童の育成

（学習指導）

- ・ 自分の思いや考えをもち、主体的に取り組むことのできる児童の育成
～ 「思い」や「考え」をもって学ぶ子どもを育てるために～

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

（評価指標の【全】は、全体アンケート実施）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	<p>A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・日常生活や瑞南ふれあい祭りなど、あらゆる教育活動の場面で、児童相互、教師と児童、教師と保護者や地域の人とふれあう機会を設定する。</p> <p>・児童会活動の活発化を図り、児童が主体的に取り組む場を設ける。</p>	B	<p>1 達成状況</p> <p>児童 94.8%</p> <p>保護者 93.3%</p> <p>地域住民 100%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ この3年間で保護者・児童の肯定的回答割合が93%以上を継続しており、取組が成果を上げていると考えられる。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 本校の伝統行事である瑞南ふれあい祭りなど保護者や地域住民とふれあう機会を設ける。児童会活動等、児童主体の活動に力を入れる。</p>
	<p>A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。〔全〕</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・教職員は、話を聴く、声をかける、賞賛する、指導する、家庭と連携するなど、児童・保護者等と積極的にかかわりをもつ。</p> <p>・教職員どうし協力し合い、共同で教育活動の推進に努める。</p> <p>・授業参観や学級懇談会などの内容を工夫し、指導方針や学級経営方針への理解を深めるよう努める。</p> <p>・年計の中身の見直しの徹底と確実な取組を実践する。</p>	B	<p>1 達成状況</p> <p>児童 98.1%</p> <p>保護者 89.3%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 保護者の肯定的回答割合は、昨年度より3ポイント上昇したが、目標値をやや下回っている。学力向上に向けた取組をより充実させていく。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 児童の基礎学力向上に向けて、引き続き指導方法の一層の工夫・改善に取り組むとともに、学校教育活動の紹介をより充実する。</p>
	<p>A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「児童（生徒）は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・ふりかえりタイムなどをとおして、児童が生活目標への自覚をもち、落ち着いた生活を送ろうとする態度を育てる。</p> <p>・下校時刻など、時間を守ることの指導を徹底する。</p> <p>・危機管理マニュアルの見直し、災害時のメール配信システムの導入などをとおして、児童が安全に学校生活を送れるような環境づくりに努める。</p> <p>・“マナー3か条”「①先にあいさつをしましょう ②廊下や階段は静かに右側を歩きましょう ③友達は『さん』付けで呼びましょう」を設定し、「マナーを守っている」ことを実感できるよう、年間を通して指導する。</p>	B	<p>1 達成状況</p> <p>児童 93.5%</p> <p>保護者 92.0%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 児童の割合は昨年度よりも0.9ポイント減少しているが、児童、保護者とも肯定的回答割合は90%以上で目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 引き続き、登下校に関する指導、避難訓練等の実施内容や実施後の見直しにより、児童が安全に学校生活を送れるような体制づくりを進め、児童の危機回避能力を高められるよう工夫する。</p> <p>○ 危機管理マニュアルの見直し・改善を行う。</p> <p>○ 児童がマナーを守っていることを実感できるようにさらに工夫するとともに、「さん」付けの実施については時と場所を考えての指導を継続して行う。また、児童の活動のようすについて、授業参観の折の全体会で周知する。</p>

<p>A4 教職員は分かる授業や児童(生徒)にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、児童生徒一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいの明確化と振り返りの実施により、児童が見通しをもって取り組める授業を行う。 ・児童の学習の実態を踏まえて、教材を工夫するなど、分かる授業の実施に努める。 ・学級担任とかがやきルーム指導員や習熟度別対応の教員の連携を密にし、より一層効果的な実施方法を工夫して少人数指導の充実を図る。 ・年間をとおして内容を整理した職員研修を実施し、教師一人ひとりの授業力向上を図る。 ・教職員と児童、児童相互のコミュニケーションに際し、傾聴の姿勢が身に付くよう、さらに学習環境作りに努める。 ・児童が「できた」「わかった」と感じる授業を展開するとともに、保護者へ発信する。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 98.7% 保護者 83.0% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童、保護者とも肯定的回答割合は80%以上で目標値を上回っている。昨年度と比較すると、保護者、児童とも約2ポイントの違いで、昨年度と同程度であった。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級担任とかがやきルーム指導員による習熟度別学習や少人数指導を行ってきた。今年度の反省を踏まえ、次年度に向けてより一層効果的な実施方法を工夫していく。 ○ 教職員と児童、児童相互のコミュニケーションに際し、傾聴の姿勢が身に付くよう、さらに学習環境作りに努める。 ○ 学校課題に児童の達成感・成就感を得られる授業実践の手立てを明記し、児童の変容を保護者に伝えるよう努める。
<p>A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して道徳の授業で「思いやり・親切」等について指導する。 ・朝の会、帰りの会でよい行いを賞賛する機会を設けたり、友達に思いやりに欠けた言動が見られた場合には、その都度でいねいに指導したりする。 ・本校基本方針を学校ホームページで公開するとともに、瑞穂野南小学校地域協議会や学校だより等を活用するなどして周知を図り、いじめ防止等の対策を家庭や地域との連携の下に推進する。 ・いじめゼロ強調月間の取組やぼぷら活動によるいじめ根絶に向けた児童の活動等をとおして、いじめ防止に努めるとともに、スタンダードダイアリーや児童へのアンケート調査や教育相談、掲示物の工夫等をとおして、いじめの早期発見に努める。 ・児童の活動のようすについて、授業参観の折に全体会(校長講話)を活用した動画による周知方法を工夫する。 ・いじめの原因の一つである携帯電話やスマートフォンなどに関する約束や情報モラル等を指導する。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 98.7% 保護者 84.4% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の肯定的回答割合は高水準である。保護者の割合も目標値を11.6ポイント上回っており、保護者への周知・啓発、連携を深める方策が成果を上げてきたと思われる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き道徳や朝の会・帰りの会などの時間で、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、地域協議会ではもちろんのこと、保護者や地域住民へさらに周知・啓発に努める。また、児童の活動の様子について、授業参観の折の全体会でパワーポイント等の画像による周知方法を継続していく。

<p>A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事実施後や授業参観、オープンスクール時に、必要に応じて保護者や教員を対象とするアンケートを実施し、次年度への課題や改善点を明らかにする。 ・年間をとおして教育課程の実施状況を評価し、より適正な実施に努める。 ・週案により、教職員個々の視点から教育課程の適切な振り返りを行い、改善の手立てとする。 ・各種たよりの内容や配付時期を工夫するなどの手立てを講じ、学校教育活動に対する家庭・地域の理解が深まるよう努める。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 保護者 92.1% 2 アンケート結果の分析 ○ 保護者の肯定的回答割合は、昨年度より2ポイント上昇し、目標値を上回った。 3 次年度の方針 ○ 今年度の反省を生かしながら、学校行事など、教育課程のより効果的な実施方法について簡素化を図りながら工夫・改善に取り組む。 ○ 保護者が複数時間の授業を参観できるオープンスクールを、2日間位置付ける。また、各種たよりの学校ホームページの内容を工夫し、学校教育活動に対する家庭・地域の理解がより深まるよう努める。
<p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の授業参観やオープンスクールを設定し、学校公開を推進する。 ・学校だよりの発行やホームページの更新などにより、学校の教育活動を保護者だけでなく、地域に向けて積極的に公開する。 ・地域協議会、自治会等に定期的に情報を発信し、情報の提供・共有化に努める。 ・地域協議会発行の「学校へ行こうカレンダー」の裏面に、学校の行事を紹介する写真を載せて、さらなる情報の提供を図る。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 保護者 97.4% 地域住民 100% 2 アンケート結果の分析 ○ 全対象者で肯定的回答割合が97%以上の高水準であり、取組が成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 ○ 各種たよりの内容を工夫したり、学校ホームページを頻繁に更新したりして、学校教育活動への理解を深めるよう努める。また、授業参観やオープンスクール等で、学校長が直接説明する場を設けるなど、より効果的な情報発信の方法を工夫する。
<p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会と連携し、教育活動の充実と活性化を図る。 ・街の先生や地域ボランティアの方々との連携を重視し、一層の充実を図り、学校行事や授業に積極的に活用することをとおして、地域の教育力の活用を図るとともに、学校と地域が共同で児童の健全育成を進めようとする環境づくりに努める。 ・企業による出前講座、校外での体験学習等、企業の専門知識、施設・設備を活用した多様な学習を位置付ける。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 保護者 92.7% 地域住民 100% 2 アンケート結果の分析 ○ 保護者、地域住民とも肯定的回答割合は90%以上で目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 ○ 地域協議会や地域コーディネーター、地域ボランティアとの連携を重視し、地域の教育力を活用した活動の一層の充実を図る。 ○ 今年度と同様に企業との連携を一層深め、校外の教育力を活用した多様な学習活動をとおして、児童の資質・能力の向上、学習意欲の向上を図る。

	<p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。[全]</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>・日常生活の中で、児童の発達の段階に応じて整理整頓の仕方を指導する。</p> <p>・主体的な取組による縦割り班清掃の充実を図る。</p> <p>・花壇の整備や季節感のある掲示に努める。</p> <p>・下学年児童によるプランターの水遣りや、教材園での草花の栽培をとおして、自然に親しみ緑化に取り組もうとする姿勢を育てる。</p> <p>・花壇・プランターの整備など、潤いのある環境作りを工夫する。</p> <p>・清掃開始時刻を厳守させるとともに、担当教員も一緒に清掃に取り組みながら、清掃方法や統一した清掃の流れを示して全児童が熱心に清掃に取り組めるように指導する。</p>	<p>B</p> <p>1 達成状況</p> <p>児童 92.2%</p> <p>保護者 93.2%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 児童、保護者ともに肯定的回答割合は目標値を上回っているが、昨年度より児童で約6ポイント下がっている。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 花壇・プランターの整備など、今後も潤いのある環境作りに取り組む。</p> <p>○ 掲示物の内容、掲示場所などの工夫をとおして、児童の学習成果を共有し合う場を設ける。</p> <p>○ 清掃指導を徹底するとともに、清掃強化週間の充実を図る。</p> <p>○ 備品整理の時間を計画的に位置付け、学習しやすい環境を整える。</p>
	<p>A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。[全]</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」 ⇒保護者・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>・地域学校園分科会・分科会ごとに今年度の基本方針を受けた取り組みの充実を図る。</p> <p>・4校連教育講演会や全体研修会の実施により、小中の相互理解を深める。</p>	<p>B</p> <p>1 達成状況</p> <p>保護者 86.1%</p> <p>教職員 94.1%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 保護者、教職員ともに肯定的回答割合は目標値を上回っている。しかし、保護者は低学年ほど肯定的割合が低い傾向にある。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 地域学校園として共通した取組によって、学習指導・児童生徒指導の充実をより充実させる。</p> <p>○ 学校園としての取り組みについて、各種たよりや学校ホームページを通して、家庭や地域に積極的に発信する。</p>
<p>教育活動の状況</p>	<p>生 A 11 児童（生徒）は進んであいさつをしている [全]</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「児童（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>・児童会委員会による毎朝のあいさつ運動、下校時のあいさつ、児童集会での呼びかけなどにより、自ら進んであいさつしようとする態度を育てる。</p> <p>・学級での指導、集会時や日常のチャンス指導などをとおして、全校体制であいさつを重視する環境づくりを進める。</p> <p>・教職員、保護者、来客に対して児童からあいさつできるようにするとともに、児童同士でも自ら先にあいさつできるようレベルアップを図る。</p>	<p>B</p> <p>1 達成状況</p> <p>保護者 86.1%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 昨年度より1ポイント下がっているが、保護者、地域住民とも肯定的回答割合は目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 児童会による朝のあいさつ運動、学校行事・集会時、登校班への指導、家庭でのあいさつの啓発などを通して、あいさつの習慣化を図る。また、あいさつ集会や週間等も継続して行う。</p> <p>○ 児童が自ら進んであいさつできる態度を育成する。</p>

<p>B1 教職員は、学校経営方針に基づき、円滑に校務を運営している</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、学校経営方針に基づき、評価を生かしながら、よりよい教育活動に努めている」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P D C Aサイクルによる見直しを進め、校務の効率化や推進の円滑化に向けて改善に努める。 ・行事や活動を行っている際や、事後の反省で改善点が出てきたときには、計画に組み込み、次年度に生かす。 ・職員会議、朝の打合せ等の機会を生かして共通理解を図り、全校体制での校務運営に努める。 ・学校の様子を家庭や地域に周知する方法を工夫する。 	<p>1 達成状況</p> <p style="padding-left: 20px;">保護者 95.1%</p> <p style="padding-left: 20px;">地域住民 100%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 保護者、地域住民ともに肯定的回答割合は95%以上の高水準であり、取組が成果を上げていると考えられる。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 今年度の反省を生かし、次年度もさらに教職員の共通理解に基づく全校体制での教育活動の実施に努める。</p> <p>○ 市マネジメントに基づく学校評価以外にも保護者・地域住民からの意見や要望を傾聴し、学校教育活動の見直しや改善に努める。また、意見・要望の収集方法を工夫する。</p> <p>○ 学校だよりの定期的な配付、HPの更新、日常の家庭とのやりとりなどをおして、情報提供をより一層充実し、「開かれた学校づくり」に取り組む。</p>
<p>A12 児童（生徒）は正しい言葉づかいをしている。[全]</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童（生徒）は、時と場に応じた言葉遣いをしている」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全般で、好ましい言語環境の整備、傾聴の姿勢の定着に努める。また、自他を尊重し合い、協力して諸活動に取り組もうとする環境作りに努める。 ・学校生活全体をとおして、あいさつ、返事など、時と場を考慮して適切な言葉づかいができるような言語環境の整備に努める。 ・児童会活動、児童集会等で、発表や司会を行う機会を設け、時と場に応じた言葉づかいを身に付けられるよう指導する。 ・来校者に対するあいさつや会釈等について、機会をとらえて指導を続ける。 ・日常の授業、会話科での指導、児童会活動、集会、各学級での活動をとおして、児童が話し方や聞き方を身に付け、相互にコミュニケーションを取り合おうとする姿勢を育てる。 ・時と場に応じた言葉づかいを児童同士でもできるように指導するとともに、教職員も率先して正しい言葉づかいを行う。 	<p>1 達成状況</p> <p style="padding-left: 20px;">児童 86.9%</p> <p style="padding-left: 20px;">保護者 80.9%</p> <p style="padding-left: 20px;">地域住民 100%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 児童、保護者、地域住民の割合は目標値を上回っており、周知・啓発の成果が表れてきたと言える。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 次年度以降も、さらに好ましい言語環境づくり、傾聴の姿勢の定着に努める。</p> <p>○ 日常の授業、会話科での指導、児童会活動、集会、各学級での活動をとおして、児童が話し方や聞き方を身に付け、相互にコミュニケーションを取り合おうとする姿勢を育てる。</p> <p>○ 次年度以降も、来校者に対するあいさつや会釈、時と場に応じた言葉づかいなどが身に付くよう指導を継続する。</p>

	<p>B2 児童は規範意識をもち、落ち着いた生活をしている。</p> <p>【数値目標】 全体アンケート「児童は、時間を守り、落ち着いて生活している」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「南小のやくそく」や「よい子の10のやくそく」を徹底する。 ・毎朝行っている登校時のあいさつ運動、休み時間の巡回指導等の機会を利用し、児童の生活の様子をきめ細かにとらえられるよう努める。 ・教員による定期的な情報交換を行い、児童全体の様子をつかむとともに、つまずきを感じている児童に適切な支援が行えるよう努める。 ・児童会活動等で、児童が主体的に呼びかけたり、掲示物を作成したりする機会を増やし、児童の自治意識の高揚を図る。 ・児童を認め励ますために、年2回の「ぼぷら賞」授与を実施し、児童理解の充実を図る。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 93.5% 保護者 93.2% 地域住民 100% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童、保護者、地域住民とも肯定的回答割合は93%以上で目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「南小のやくそく」「よい子の10のやくそく」に関する指導を続け、児童の規範意識を高める。 ○ 児童会活動、学級での指導、学校行事や集会時の指導をとおして、児童に自分たちの生活を主体的に見つめ改善していこうとする姿勢を育てる。 ○ 教職員が、全校体制で児童のようすをきめ細かに観察し、児童一人ひとりに目を向けた指導が適時・適切に行えるよう、教職員間の連携をより一層密にするよう努める。
<p>健康・体力</p>	<p>A13 児童（生徒）は進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値目標】 全体アンケート「児童は、平日の授業後や休日などに積極的に運動している」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業間に実施するスポーツタイムの内容を工夫したり、水泳検定・縄跳び検定等を継続的・計画的に位置付けたりすることをおして、児童がスポーツに親しみ進んで運動に取り組もうとする態度を育てる。 ・体育の授業で行う準備運動の内容を工夫し、児童がめあてをもって体力の保持・増進に努められるような環境を整える ・保護者に、学校で実施している取り組みを効果的に伝える方法を工夫する。 ・「なかよしタイム」を設け、縦割り班で遊べる時間の確保を工夫する。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 92.2% 保護者 75.0% 教職員 88.2% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童及び教職員の肯定的回答割合は目標値を上回っているが、保護者の割合は下回っている。家庭での運動習慣が身につけていないと考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続実施する。 ○ 今年度実施している「スポーツタイム」や各種検定について、より一層効果的な実施方法を検討する。 ○ 業間や昼休みの外遊びの奨励など、児童が体を動かす機会の位置付けをさらに工夫する。 ○ 保護者に、学校で実施している取組（各種検定やプロジェクト活動）を授業参観および学級懇談等で知らせ、家庭と連携を図るよう工夫する。

<p>A14 児童（生徒）は、栄養のバランスを考え、食事をしている。 〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、好き嫌がなく食事をしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と学校栄養士が連携し、給食時や学級活動をとおして好き嫌いのない食事の指導を行う。また、家庭科の授業等で、T・Tによる指導を行うなど、指導方法の工夫・改善を進める。 ・給食だよりなどにより食育の大切さを家庭へ発信する。 ・「お弁当の日」や「ふれあい給食」の実施をとおして、児童と保護者が共に食育の大切さを実感する機会を設ける。 ・保護者に給食の様子を周知する機会を増やすとともに、学校で行っている食育の推進状況を学校だよりや食育だよりなど、さらに周知する方法を工夫する。 ・ランチルームを活用して異学年児童による交流給食、お誕生日給食などを実施し、児童同士や児童と地域住民とが楽しく会食する場を設ける。 ・ランチルームや廊下の掲示スペースなどに掲示する食育に関する資料の充実を図り、日常的な啓発活動を続ける。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 92.2% 保護者 74.2% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の肯定的回答割合は目標値を上回ったが、保護者の割合は目標値を下回っている。保護者への周知・啓発はしているものの、学校と家庭では児童の様子が異なることが考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続実施する。 ○ 給食週間等に児童に「給食の振り返り」をさせて、家庭でも給食や食事について考える機会が持てるように工夫する。
<p>B3 児童は体力や体育の技能の向上を目指し、進んで運動している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、めあてをもって体力づくりをしている」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気っ子健康体力チェック」の結果にもとづき、学校全体の傾向を踏まえて、体力づくりに励むように指導する。 ・授業やスポーツタイムでは、体力づくりのための自己目標を設定し、実践する。 ・業間時や昼休みは、外遊びを奨励する。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 88.3% 保護者 81.4% 教職員 88.2% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童、保護者、地域住民とも肯定的回答割合は81%以上で目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続実施する。 ○ 授業や新体力テストで明らかになった児童の実態を踏まえて、体力づくりを進める。 ○ 今年度も授業実践をとおして体育科の授業の年間指導計画の見直しを進めてきたが、次年度以降もより一層の自校化を図る。 ○ 各種検定の実践を続け、児童が楽しみながら体力づくりに取り組めるような機会の充実を図る。 ○ 学年だよりでの紹介、HP、掲示物による紹介など、体力づくりに向けての取組について家庭・地域への情報発信に努める。 また、なわとび検定など、家庭との連携を図った活動についての周知方法を工夫し、家庭との連携を深める。

	<p>B4 児童は安全に気を付け、落ち着いて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、安全に気を付けて生活し、けが防止に努めている」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育を徹底することにより、けがによる保健室利用を減少させる。 ・日常生活や教科指導の中で、自然災害（雷、竜巻、豪雨等）について、学年の発達の段階に応じて指導し、安全に行動できるようにする。 ・避難訓練、交通安全教室などの定期的な実施、事前指導・事後指導の充実をとおして、児童が安全な学校生活を送ろうとする意識を高める。 ・縦割り班による登校・下校の際の随時指導、通学路の安全確保に向けての話し合い活動などをとおして、児童が主体的に通学時の安全について考え行動する機会を設け、安全意識の高揚を図る。 ・毎朝のあいさつ運動や立哨活動などの機会を活用し、スクールガードチームとの連携を深め、児童の登下校の状況の把握に努める。 ・企業の防犯教室や、避難訓練時における宇都宮東消防署平石分署、宇都宮南警察署、警察スクールサポーター、企業など、専門的な知識をもつ外部機関との連携を図った体験的な学習の場を設け、児童の危機回避能力や防災意識を高める。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 92.9% 保護者 91.8% 教職員 100% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童、保護者、地域住民とも肯定的回答割合は90%以上で目標値を上回っており、取組が一定の成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難訓練、交通安全教室などの内容や実施方法について、今年度の反省を踏まえて見直しを図る。 ○ 登下校時の通学班への日常的な指導をとおして、児童が主体的に安全に配慮した行動をとろうとする姿勢を育てるとともに、下校時おける指導方法を工夫する。 ○ 日常の指導、避難訓練などの緊急時の対応を想定した活動での指導をとおして、児童の危機回避能力の向上を図る。 ○ 危機管理マニュアル、防火防災計画などの見直しを続け、緊急時に対応できる体制づくりを推進する。 ○ 保護者、スクールガードチーム、見守り隊などとの連携に基づき、登下校時の児童の安全確保に努める。
学 習	<p>A15 児童（生徒）は、進んで学習に取り組んでいる。〔全〕</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童（生徒）は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して、「話を聞く」「分かりやすく伝える」態度や技能が高まるように指導する。 ・火・金曜日朝に実施する「がちり学習タイム」を活用して、国語・算数を中心に基礎的・基本的な内容の定着を図る。また、より効果的な実施方法、児童の学力向上に向けての支援の手立てを工夫する。 ・授業での言語活動の重視や会話科の実施によって、発表の場や話し合いの場を設定し、「はっきりと話す」態度を養う。 ・授業、日常の指導、児童会活動、学校行事や集会活動など、様々な機会を設けて返事や聞く姿勢（相手の発表への傾聴）を継続的に指導し、双方向的なコミュニケーションを大切にしようとする姿勢を育てる。 ・自分の考えをまとめて発表する学習機会を設け、効果的に発表を行う技能を高めるとともに、自他を尊重し合う態度を育てる。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 92.9% 保護者 85.6% 教職員 100% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童、保護者、教職員とも肯定的回答割合は87%以上で目標値を上回っており、取組が一定の成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度も児童の学力向上に努めてきたが、次年度も継続して職員研修の充実などをとおして指導方法の工夫・改善に努める。 ○ 授業や日常の指導をとおして言語環境の整備に努め、自他を認め合い、学び合おうとする態度を育てる。 ○ 授業、日常の指導、児童会活動、学校行事や集会活動など、様々な機会を設けて傾聴の姿勢の育成、双方向的なコミュニケーション能力の育成に取り組む。 ○ 今年度実施した「がちり学習タイム」の実施状況を見直し、より効果的な実施方法、児童の学力向上に向けての支援の手立てを工夫する。 ○ 児童へ「聞き方、話し方」「発表の仕方」等の指導を継続し、子ども自ら意識できるように指導を充実していく。 ○ 保護者が学校での取組や児童の学習の様子を知る機会を設ける、情報発信の方法を工夫するなど、開かれた学校づくりに努める。

<p>A16 児童（生徒）は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 全体アンケート「児童（生徒）は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が落ち着いて生活できるような教室環境づくりに努める。 ・廊下の壁面などを活用して、児童が学習の成果を共有し合い、互いのよさを認め合えるような掲示物を工夫する。 ・朝の読書、読み聞かせなどを活用し、静かに傾聴する機会を設ける。 ・教職員がわかる授業の実施に努めるとともに、児童の学習状況を観察し必要に応じて個別に支援できるような体制づくりを進める。（きめ細やかな情報交換、学級担任とかがやきルーム担当との連携、学級担任と指導助手との連携による個別指導の機会の充実等） ・家庭学習のめあてを示す、提出物や児童作品にきちんと目を通しコメントを添えるなど、児童が達成感を感じながら自主的に学習に取り組めるような学習環境づくりに努める。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 91.6% 保護者 90.0% 教職員 100% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者、地域住民、教職員とも肯定的回答割合は90%以上で目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童は今年度も落ち着いて授業に取り組んでいるが、次年度もこのような学習態度が定着するよう指導方法の工夫・改善、学習環境の整備に取り組む。 ○ 分かる授業の創造、児童一人ひとりに目を向けた個に応じた指導の充実に向けて、学級担任と他の教職員が一層の連携を図って指導にあたるよう努める。 ○ 児童の学習成果を掲示する方法、授業や集会で発表する場の設定の仕方の工夫などをおして、互いを尊重し合い学習成果を共有し合おうとする態度を育てる。
<p>B5 家庭と連携した基本的な学習態度が育成されている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、家庭と連携した基本的な学習態度が育成されている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け家庭学習スタンダードを活用し、家庭と連携しながら家庭学習を奨励する。 ・児童の学習状況を踏まえた課題を与えるなど、家庭学習を効果的に進められるような学習環境づくりを進める。 ・学年だより、学級懇談会、授業参観やオープンスクールなどの機会を活用し、学校と家庭が連携を図りながら児童の学習を支えられるような体制づくりに努めるとともに、児童のよさや成長の跡を伝え、家庭の協力を呼びかける。 ・「がっちり学習タイム」の目的、実施している内容などを保護者に周知・啓発するとともに、実施日を火・金曜日の週2日間として実施する。 	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 児童 88.3% 保護者 88.0% 2 アンケート結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童、保護者とも肯定的回答割合は88%以上で目標値を上回っており、取組が成果を上げていると考えられる。 3 次年度の方針 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の内容について、「瑞南版家庭学習スタンダード」を用い、保護者に継続して周知し、家庭の協力を得られるよう工夫する。特に、基礎・基本の定着を図る工夫をする。（低中高ブロックごとに、発達段階に応じた家庭学習の時間の使い方や内容を示し、保護者が子どもを見るときの手立てとなるようにする。） ○ 家庭学習のファイルについて、効果的な活用の仕方を工夫する。（保護者のチェック欄、確認や押印、コメントの記入など） ○ 「がっちり学習タイム」の目的、実施内容などについて、「がっちり学習タイム」用のファイルを定期的に持ち帰り、保護者と取組の状況を共有できるようにする。

本校の特色・課題等	<p>B6 児童は本に親しみ、進んで読書する態度が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、本に親しみ、進んで読書する態度が身に付いている」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・「どっぷり読書タイム」（朝の読書タイム）を活用した読書活動などとおして、児童が読書に親しみ、進んで読書に取り組もうとする習慣作りをさらに推進する。</p> <p>・子ども読書の日、夏休みの読書活動、年間2回の校内読書週間に合わせた「ノーテレビ、ノーゲーム」の呼びかけ、B日課での読書活動の取組（よむよむタイム）などとおして、ファミリー読書（家読）を推奨する。</p> <p>・「よむよむタイム」に関しては、児童が図書室から本を借りる曜日・時間帯を各学年で工夫するとともに、保護者に「よむよむタイム」の意義や実施方法を周知する機会を設ける。</p> <p>・保護者が児童とともに「家読」に取り組む機会を工夫する。また、アンケートを実施するなど、「家読」の実施状況の把握に努めるとともに、その結果を分析して、さらに読書活動が充実するように工夫する。</p> <p>・読み聞かせやブックトーク、民話語りを実施し、児童が様々な本と接する機会を設ける。</p> <p>・「親子読書」を推奨する工夫をするとともに、「読書通信」等を利用して紹介する。</p> <p>・「本を借りよう！の日（仮称）」を決め、遊びに行く前に図書室にいける機会を設ける。</p>	<p>1 達成状況 児童 74.0% 保護者 74.2% 教職員 94.1%</p> <p>2 アンケート結果の分析 ○ 教職員の肯定的回答割合は目標値を上回っているが、児童と保護者の割合は目標値を下回っている。</p> <p>3 次年度の方針 ○ 学校での読書時間の確保として「どっぷり読書タイム」は成果を上げているので、継続する。 ○ 「よむよむタイム」に関しては、児童の間で定着しつつある。今後は、児童が図書室から本を借りる曜日・時間帯を各学年で工夫することを継続し、教師から児童への呼びかけや、利用状況の見届けをより丁寧に行っていく。 ○ 保護者に「よむよむタイム」の意義や実施方法を周知する機会を増やすとともに、家読（うちどく）のめあてを立て、「よむよむタイム」に合わせて親子で振り返る機会をもつようにする。 ○ 朝や休み時間の図書室利用の方法を子児童と教師で共通理解し利用を進めていく。 ○ 児童が本に触れる機会が増える工夫をする。</p>
	<p>B7 児童は進んで地域の行事に参加している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、進んで地域の行事に参加している」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・地域の行事を紹介し、地域の行事に積極的な参加を促す。</p> <p>・5年生が取り組むホタルの飼育など、児童が地域の方々と共同で活動できる機会の充実に努める。</p> <p>・配付物や掲示など教職員からも周知するとともに、児童の参加の様子を定期的に広報することとおして児童に活動のめあてを明示したり、参加しようとする意欲を高めたりする。</p>	<p>1 達成状況 児童 79.9% 保護者 83.0% 教職員 93.3%</p> <p>2 アンケート結果の分析 ○ 保護者と教職員の肯定的回答割合は目標値を上回ったが、児童は下回った。教職員と児童では約13ポイントの差がある。</p> <p>3 次年度の方針 ○ 参加している児童が一部に限られているとも考えられるので、地域の行事の情報を児童・保護者に積極的に発信し、参加を促す働きかけを続ける。 ○ 地域の行事に参加している自覚がない児童もいると考えられるので、その都度振り返りをさせる。 ○ 農業体験学習等、地域のボランティアの方とふれあう機会を設け、活動をおして地域の成員としての自覚を高める。</p>

<p>B8 児童はぼぶら活動（児童会活動）に進んで参加し、充実した活動が進められている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「児童は、ぼぶら活動（児童会活動）に進んで参加し、充実した活動が進められている。」</p> <p>⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達の段階に即した児童の自主的活動を推進する。 ・児童集会での発表など、ぼぶら活動の内容を全校児童の前で発表する機会を設け、活動のめあてを明らかにするとともに活動意欲を高める。 ・掲示コーナーの充実、各種広報物による紹介を通して、活動の成果や過程での努力を称賛する場を設けるなど、全校体制で活動の活性化を支える。 ・活動に際し、児童が活動の目的や意義を理解するよう指導し、「瑞穂野南小の伝統を主体的に継承しよう」とする意欲と自覚を高める。 	<p>1 達成状況</p> <p>児童 93.5%</p> <p>保護者 93.4%</p> <p>2 アンケート結果の分析</p> <p>○ 児童、保護者とも肯定的回答割合が91%以上の高水準であり、取組が成果を上げていると考えられる。</p> <p>3 次年度の方針</p> <p>○ 継続実施する。</p> <p>○ 児童集会、プロジェクト活動など、児童主体の活動は意欲的に行われている。今後も、児童が自主的・主体的に活動する場を設け、児童の自治意識の向上、集団をよりよくしていこうとする意欲の高揚を目指して、指導・支援を継続したい。</p> <p>○ 活動をととして、上学年児童が下学年児童をリードする機会を設け、児童相互にリーダーシップやフォロワーシップが育つよう工夫していく。</p> <p>○ 授業参観やオープンスクールなどの機会に直接紹介する、定期的な配付物やHPでの広報をととしてぼぶら活動のようすを家庭・地域に発信するなどの機会を設け、ぼぶら活動の内容や成果がより一層伝えられるよう工夫する</p>
--	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>1 成果</p> <p>(1) 全対象、全24項目中、19項目で肯定的割合が目標値を超えている。昨年度の16項目から3項目増加したことから、本校の取り組みが成果を上げていることが分かる。</p> <p>(2) 「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」及び「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の項目は、教職員、保護者、児童ともに肯定的回答が昨年度を上回り、本校の授業力向上への取組が成果を上げていることが分かる。</p> <p>(3) 昨年度、保護者の肯定的回答が8割を下回っていた、「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」の項目は、肯定的回答が11.6ポイント上昇した。学校が、学校ホームページや保護者会等でいじめ対策を積極的に発信した結果と考えられる。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) <u>「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」の項目は、保護者の肯定的回答が目標値を超えているものの、下の学年ほど低い値を示している。学校での取組について、学校ホームページや学校だよりを通して周知していく必要がある。</u></p> <p>(2) 「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」の項目は、教職員、児童ともに昨年度の肯定的回答を下回った。保護者の肯定的回答は昨年度を上回ったが、75.0%にとどまった。外遊びを奨励し、進んで体を動かす習慣を付けさせる必要がある。</p> <p>(3) 「児童は好き嫌いなく給食を食べている」の項目は、教職員と児童の肯定的回答は9割を超えているが、保護者のみ74.2%にとどまっている。保護者が、自分の子どもに偏食傾向があると感じていることの表れと思われる。児童がよりよい食生活習慣を身に付けられるよう、学校と家庭が連携していく必要がある。</p> <p>(4) 「児童は、本に親しみ、進んで読書する態度が身に付いている」の項目は、教職員の肯定的回答が9割を超えているのに対して、保護者、児童はそれぞれ74.2%、74.0%にとどまった。あらためて「よむよむタイム」の意義を周知し、引き続き「家読（うちどく）」を奨励する必要がある。</p>
--

6 学校関係者評価

- (1) 正しい食習慣については、家庭でも意識しているが、偏食傾向が見られるのは確かである。苦手な食材でも、学校給食で出たり、学校や地域の行事で自ら調理したりしたものは食べることができるようだ。
- (2) 外遊びがよいのはわかっているが、友達の家が遠く、保護者が送迎する必要がある。結果、放課後に遊ぶ機会が制約されてしまう。
- (3) いろいろな娯楽があふれ、家庭で読書する姿はあまり見られない。しかし、映画の原作本に興味をもち、進んで本に手を伸ばすようなこともある。読書へのきっかけを大人が意図的につくるのも手ではないか。また、高学年になるにつれて宿題も多くなってくるので、読書をするための時間そのものが確保できていない気がする。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 児童の授業態度は良好であり、学習への意欲・関心も高い。校内研修の要として、引き続き「とちぎっ子学力アッププロジェクト・学力向上応援団派遣事業」を活用する。学力向上専門員のアドバイスを受けながら教員一人一人の授業力向上を図り、ひいては児童の学力向上を目指す。
- (2) 児童がじっくり読書したり、思い切り体を動かしたりできる時間をできるだけ確保し、読書習慣、運動習慣の定着を図る。特に、読書については、「よむよむタイム」を引き続き設定し、家庭と連携して習慣付けを図る。
- (3) 本校の「いじめ防止基本方針」については、保護者や地域にも理解が深まっている。来年度の改訂を機に、さらに周知できるよう、学校ホームページで公開したり、保護者会で説明したりする。また、引き続き「いじめアンケート」の定期的な実施等により、いじめの防止と早期発見、早期解決に努める。